

## 内科専門医に聞く

副院長  
(内科部長・呼吸器内科部長)

かわさき あきら  
川崎 聡



### 咳に注意



今年も秋になりいよいよインフルエンザのシーズンに突入します。皆さんはどのような症状が出たらインフルエンザを疑いますか？・・・そう発熱があった時だと思います。ところが、インフルエンザで最も多い症状は・・・実は「咳」なんです。インフルエンザが治った後もしばらく咳が続いたなんてことを経験された方も多いと思います。

では、実際に咳が出てきた時にはどのように対処すればいいのでしょうか。咳はその続く期間によって、「急性の咳：3週間以内」「遷延性の咳：3週間～8週間」「慢性の咳：8週間以上」の3つに分類します。

急性の咳の場合は、インフルエンザなどのウイルス感染（いわゆる風邪）が最も多いので、風邪っぱいと思えば数日様子を見るのが一般的です。ところが、たまに肺炎や結核・肺癌、心疾患など重篤な病気のことがあります。この場合は咳以外の症状、つまり発熱、鼻炎や喉の痛み、呼吸困難や動悸、食欲低下や体重減少などの症状の有無で判断する必要があります。そのような症状が強い場合は早めの受診が進められます。他の症状がなくて咳だけの場合だと1～2週間様子を見てもいいと思いますが、それでも「2週間以上咳が続いたら胸のレントゲンを撮ってもらうこと」が大切です。結核や癌などは咳だけが続くことは稀ではありません。

慢性の咳の場合は8週間以上続いているということになりますが、それまでに医療機関を受診されていることが前提です。そのような咳の原因の多くは、「咳喘息」「アトピー<sup>かいてそ</sup>咳嗽」「副鼻腔気管支候群」「鼻炎/後鼻漏」「胃食道逆流症」などで、アレルギーや鼻の病気などの基礎の疾患（体質）があることが多くなります。感染や癌などの重篤な病気の可能性は低くなってきます。咳止めの薬で良くならない場合は、このような基礎疾患のチェックをしてからいくつかの種類の薬を試していくことになります。

実は病院を受診される咳の方は、3～8週間続いている遷延性の咳が一番多いのです。そのような場合は急性の咳の延長なのか慢性の咳なのかを考えながら対応しています。

最後にお願ひです。咳で医療機関を受診される際には「咳エチケット」としてマスクをしていただきますようお願いいたします。特にインフルエンザ流行期には来院者全員にマスクの着用をお願いしています。

発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山労災病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail: [chiki2@toyamah.johas.go.jp](mailto:chiki2@toyamah.johas.go.jp)